

【児童への話】

今は、節季でいう「白露（はくろ）」の時期に当たります。白露は、朝露が目立つようになったり、空が高く感じたり、朝晩の気温が涼しく感じたりする時期のことです。スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋などと言われるように、何をするにも心地よくて爽やかな、本格的な秋を迎えますので、皆さんも張り切って、色々なことにチャレンジできるとよいですね。

さて今日は、「秋の味覚と地球の環境」についてお話しします。

校長先生は、秋の味覚の中でも特に、お魚のサンマが大好きです。サンマには食べたプランクトンをためて消化するための胃がないので、昼間に食べたものは、夜にはもう体の中からなくなっています。サンマの漁は光を使うために夜に行われるので、きれいな身体 of サンマが獲れて、内臓まで全部おいしく食べられるんです。こんがり塩焼きした脂ののったサンマをアツアツのご飯と一緒に頬張ると、秋がきてよかったなあとしみじみ思います。

しかし年々、そのサンマがなかなか獲れなくなっているんです。2008年の最盛期には34万トンも獲れていたサンマですが、その14年後の2022年には1万7千トンと、およそ20分の1まで減ってしまいました。サンマは今年も不漁の予想で、1尾の値段が高く、なかなか食卓に載せられないお魚になりそうで、校長先生はとても悲しいです。

日本近海でサンマが獲りにくくなった理由はいくつかあるのですが、近年の地球温暖化による海水温の上昇が大きな原因だと言われています。北太平洋全体をグルグルと回って泳ぎながら成長するサンマは冷たい海水を好むので、海水温が高くなってきた日本の近くに近寄らなくなった、ということです。

海水温や気温が高くなると、サンマが獲れなくなる以外にも、よくない影響が地球全体に出てきます。台風などの発生が増えてとても強い勢力になること、線状降水帯が発生しやすくなって水害が増えること、山の氷が溶けたり大雨が降ったりして土砂災害が起こりやすくなることなどです。これらはここ数か月で、日本だけでなく世界各地で起こっている自然災害です。落五小にも、突然の大雨に遭って大変な思いをした人がたくさんいると思います。

地球の環境をよくするために私たちができることは、残念ながら限られています。だからまず、地球上の環境問題やその原因を正しく知り、人間に、そして自分にできることを考え、地道な努力を続けていくことが大切だと思っています。ごみを減らすこと、電気や水を大切に使うことなど、毎日の小さな心がけが、かけがえのない地球を守ることにつながります。地球の環境について考え、よい実践ができる落五のみなさんでいてください。今日は「秋の味覚と地球の環境」についてお話ししました。

【本講話について】

先週、一人の1年生男児が校長室を訪れ、最近突然の大雨で困ったこと、皆が地球に優しくしないといけないと思っていることなどを私に話してくれました（スバラシイです！）。早速、秋の食に絡めた地球環境に関する朝礼講話を考え、今日、全校に伝えさせてもらいました。話のネタをありがとうね。

私は、近年多発する自然災害への恐怖を禁じえません。学校における環境教育は、その後の実践意欲や実践力の向上につながるものでなければならぬと強く感じています。災害時の備えを含め、環境や防災・安全についての教育活動を、日々改善しながら推進し続けていきます。保護者、地域の皆さまも、よろしくご協力ください。